

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 8 日現在

機関番号：34526

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21730486

研究課題名（和文）

高齢者ケア施設におけるターミナルケア実施が職員に与える心理的影響

研究課題名（英文）

Psychological effects of experience in terminal care on nursing home staff

研究代表者

安部 幸志（ABE KOJI）

関西国際大学・人間科学部・准教授

研究者番号：90416181

研究成果の概要（和文）：本研究では、介護施設においてターミナルケアを実施することによる、職員への心理学的影響について検討することを目的とした。調査分析の結果、バーンアウトの下位尺度である職務効力感について、ターミナルケアを実施した経験がある者の方が有意に高いことが明らかとなった。これは、ターミナルケアを実施することが必ずしも職員のストレスにつながるのではなく、職務に対するモチベーションを向上させるという肯定的な側面もあることを示していると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to examine the psychological effects of terminal care experience on nursing home staff and analyze the differences between staff who are experienced and those who are inexperienced in providing terminal care. Analysis of variance (ANOVA) revealed that the professional efficacy (a subscale of the Maslach Burnout Inventory-General Survey [MBI-GS]) of the experienced staff was significantly higher than those of the inexperienced staff. The high professional efficacy noted among the experienced staff suggests that the provision of terminal care in nursing homes does not necessarily lead to burnout among caregivers and may in fact serve as an important motivational factor.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：社会福祉関係、高齢者福祉、介護福祉施設、ターミナルケア

1. 研究開始当初の背景

わが国では、多くの高齢者が病院ではなく、在宅で死亡することを望んでいるという（Sanjo et al., 2007）。しかし、実際に在宅で死亡する割合は、2004年以降、13%を下回っており、希望と現実に大きな乖離が存在

する。厚生労働省によると、高齢者ケア施設における看取りも、自宅と同じく、「生活の場」における死亡であり、在宅死として捉えることも可能であるとされているが（厚生労働省、2003）、高齢者ケア施設における看取りは全体の2%に過ぎず、高齢者の「生活の

場」で死を迎えたいという希望に現状では十分に込えられていない。わが国の高齢者ケア施設において、看取り数が増加しない理由の一つとして、ナーシングホームなどのケア施設における看取りは、痛み、せん妄、呼吸困難など様々な症状への対処が必要となるため、職員への負担が大きいとされていることがあげられる (Reynolds et al., 2002)。しかしながら、介護老人福祉施設においてユニット・ケアが導入され、「生活の場」としての機能が整備されるとともに、医療機関との連携も進んでおり、欧米と同様に、高齢者の希望に応じてターミナルケアを提供することが、今後、高齢者ケア施設の重要な役割の一つとなると考えられる。

2. 研究の目的

本研究では、介護老人福祉施設や介護老人保健施設、介護療養型医療施設等に勤務するケアワーカーを対象として、ターミナルケアに対する意識と、実際にターミナルケアを行ったことによる心理的影響を把握し、それらに関連する要因について実証的に検討することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、上記課題を達成するために、以下の2つの方法を用いた。

(1) 介護職員に対するインタビュー調査
わが国の高齢者ケア施設に勤務する職員が、ターミナルケアに対してどのような意識を有しているか、そして死に対してどのように捉えているかを検討するために、現在高齢者ケア施設に勤務しているケアワーカーを対象としたインタビュー調査を行った。具体的には、現在の職場においてターミナルケアを実施することに対する不安や、看取りに立ち会う際の心配事項について調査を行った。

(2) 介護職員に対する質問紙調査
高齢者ケア施設に勤務する職員を対象とした質問紙調査を行った。具体的には、複数の介護老人福祉施設、介護保健老人施設、介護療養型医療施設において、高齢者に対する介護を職務とする職員を対象とした自記式質問紙による調査を行い、欠損値を適切に処理した上で分析を行った。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

本研究では、介護職員がターミナルケアを実施することによる心理的影響を明らかにすることを目的として調査を行った。その結果、ターミナルケアを実施することが必ずしもストレスとなるのではなく、むしろターミナルケアを経験することによる肯定的な影響

が認められることが明らかとなった。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

高齢者ケア施設でターミナルケアを実施することによる影響を実証的に示した研究は、国内・国外を問わず、本研究以外にはほとんど認められず、基礎的なデータとしての価値は高いものと思われる。

(3) 今後の展望

本研究では、調査の限界から、ターミナルケア経験の有無のみに焦点を当てたが、個人の死生観や、介護教育におけるデス・エデュケーション等も心理的な影響を及ぼしていると考えられる。今後は、それらの要因についても検討する必要があるだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① Abe K, Ohashi A. Positive effects of experience in terminal care on nursing home staff in Japan. *American Journal of Hospice & Palliative Medicine* 2011; 28: 389-92. 査読有.
DOI: 10.1177/1049909110396351
- ② Abe K, Ohashi A. Development and testing of a staff questionnaire for evaluating the quality of services at nursing homes in Japan. *Journal of the American Medical Directors Association* 2009; 11: 189-195. 査読有.
DOI: 10.1016/j.jamda.2008.10.004

[学会発表] (計6件)

- ① Abe, K. Positive experiences from care-work and their effects on burnout syndromes: Results from a national cross-sectional survey in Japan. The 63rd Annual Scientific Meeting of the Gerontological Society of America. 2010年11月22日、New Orleans, USA.
- ② 安部幸志. 介護施設におけるターミナルケア実施が職務ストレスに与える影響. 日本心理学会第74回大会. 2010年9月22日、大阪府豊中市
- ③ 安部幸志. 介護施設における雇用管理要因が職員のストレスに及ぼす影響. 第52回日本老年社会学会大会. 2010年6月18日、愛知県東浦町
- ④ Abe, K. Medical and Social Factors affecting home death rates by prefecture in Japan. The 62nd Annual Scientific Meeting of the

Gerontological Society of America.
2009年11月21日、Atlanta, USA

- ⑤ 安部幸志, 大橋明. 介護施設における職場の雰囲気改善に関する探索的研究. 日本心理学会第73回大会. 2009年8月27日、京都市
- ⑥ 安部幸志, 大橋明. 介護職従事者の離職要因に関する質的データ分析の試み. 第51回日本老年社会科学大会. 2009年6月20日、横浜市

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安部 幸志 (ABE KOJI)

関西国際大学・人間科学部・准教授

研究者番号：90416181